

【令和5年度】指定管理者制度導入施設の管理運営状況総合評価シート

施設名	吹田市立高齢者いこいの家	所管部室課名	高齢福祉室
所在地	吹田市岸部中1-24-11	設置年月日	昭和63年1月22日

1 施設の概要

(1)設置目的	高齢者の健康増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を提供し、高齢者の相互交流と社会参加を促進するとともに、高齢者の自立支援を図り、もって高齢者の福祉の増進を図ること。		
(2)規模、開館日等	【設備等】 部屋：和室、洋室、多目的ホール 設備：カラオケ機器、マッサージ機、囲碁・将棋、運動機器等	【開館日等】 開館日：月～土曜日午前9時～午後5時30分 休館日：日曜日、祝・休日、12月29日～1月3日	

2 指定管理者の概要

(1)指定管理者	労働者協同組合法人ワーカーズコープ・センター事業団 (R5.4.1に法人名変更、変更前は「特定非営利活動法人ワーカーズコープ」)					
(2)指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日					
(3)選定方法	公募					
(4)指定管理者が行う業務内容	1 高齢者の健康増進、教養向上等のための場の提供、講座の実施。 2 高齢者の交流、社会参加の促進、高齢者の福祉増進に関する事業の実施。 3 施設の使用申請・許可。 4 施設の備品、設備等の管理。					
(5)指定管理者の収支			令和4年度		令和5年度	
			計画	実施結果	計画	実施結果
	収入	委託料 (円)	16,186,000	16,186,000	16,186,000	16,186,000
		自主事業 (円)	120,000	103,244	183,879	157,521
		合計 (円)	16,306,000	16,289,244	16,369,879	16,343,521
	支出	管理経費 (円)	16,186,000	16,186,000	16,232,779	15,767,492
		自主事業 (円)	120,000	56,465	84,200	79,630
合計 (円)		16,306,000	16,242,465	16,316,979	15,847,122	
収支差額 (円)		0	46,779	52,900	496,399	

3 施設の利用状況

利用状況を示す指標		令和4年度		令和5年度	
		計画	実施結果	計画	実施結果
1	利用者数 (人)	10,000	10,125	12,000	12,156
2	開所日数 (日)	294	294	293	292
3	1日平均利用者数 (人)	34.0	34.4	41.0	43.3
4	主催講座 開催回数 (回)	72	63	119	130
5	共催事業 開催回数 (回)	14	9	0	0
6	自主事業 開催回数 (回)	42	122	93	105

4 利用者ニーズの把握の状況

(1)把握方法	年1回の利用者アンケート、講座参加者のアンケート(随時)、利用者との日頃の会話、利用者懇談会、目安箱で把握している。
(2)把握結果	おおむね満足との結果だった。特に職員の対応について約9割が満足と回答、講座の種類及び内容については約8割が満足と回答があった。
(3)結果を受けての対応状況	アンケートでは満足・不満な点のほか、生活の中で困っていることを聞き取る項目を設けている。生活の中で困っていることは「食事作り」や「スマホ」が多数を占めており、その内容に対応すべく、スマホ講座やごはんとスूपの会といった講座を開催している。

5 管理運営状況に対する評価

項目	評価
(1)市民の平等な利用の確保	設置条例・施行規則等を遵守し、使用許可を行っている。 また、利用を許可してよいか迷う場合、すぐに市へ問い合わせがある。市との協議結果を踏まえ、申込み者に丁寧に対応している。
(2)施設の効用の発揮	日頃の会話、アンケート等でニーズを把握しており、講座の内容等に反映している。講座の参加者からは、「これからも続けたい」「先生の話が楽しい、元気が出る」といった声があった。講座をきっかけに、高齢者の外出促進や生きがいがづくり、教養の増進に繋がっている。
(3)管理を安定して行う人員、資産その他の経営規模及び能力	事業担当者を常時2名ほど配置し、利用者に対し綿密に対応できている。また、職員会議で次年度の事業計画や予算を協議する際、どのように予算を工面し、原価率を低く抑え、事業を多く展開できるかを念頭に置いている。
(4)施設の管理経費の縮減	警備の依頼を機械警備に変更し、日常清掃を職員で行うことで経費を前年度の約半分に削減できた。裏紙の使用、電灯の間引き、落ち葉の堆肥化等を行い管理経費の縮減を行った。
(5)その他	人気の講座を定番としつつも、毎年度新たな講座を展開している。座学だけでなく、畑の作物を収穫し調理するなど体験型の講座もあり、バリエーションが豊富である。また、利用者の声を敏感に捉え、講座に反映したり、大学生講師の講座を開催するなど柔軟に対応している。 内部管理については、事故防止や個人情報保護のマニュアルを多数整備しており、あらゆる事由に備えられるようにしている。また、職員研修について、サービスに直接関わるもの(人権研修、認知症サポーター養成講座等)だけでなく、内部管理に関わるもの(インボイス制度講座等)も実施し、職員の教育に注力する姿勢が窺えた。
(6)総合評価	協定書等をおおむね遵守し、施設の管理運営を行っていた。管理面(業務日誌や規程等)、サービス面(利用者対応、講座展開)のいずれもにおいて、綿密であり、職員の心配りが行き届いていた。 人気の講座を定番としつつも、利用者の声や社会のニーズを反映した新たな講座を展開している。 利用者数が毎年増加し昨年の1.2倍となっている点、利用者の満足度が高い点から、利用者のニーズを適切に把握し、相応しいサービスを提供できていると評価できる。